

**製品名: PARP-2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab15766**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	75kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PARP2
別名	PARP2; ADPRT2; ADPRTL2; Poly [ADP-ribose] polymerase 2; PARP-2; hPARP-2; ADP-ribosyltransferase diphtheria toxin-like 2; ARTD2; NAD(+) ADP-ribosyltransferase 2; ADPRT-2; Poly[ADP-ribose] synthase 2; pADPRT-2
遺伝子 ID	10038.0
SwissProt ID	Q9UGN5
免疫原	抗血清はヒト PARP2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

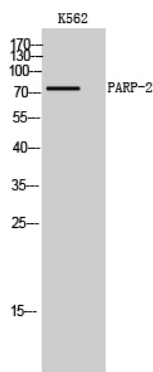
**背景**

この遺伝子は、触媒ドメインを有し、ポリ(ADP-リボシル)化反応を触媒するポリ(ADP-リボシル)トランスフェラーゼ様タンパク質2をコードしています。このタンパク質は、ポリ(ADP-リボシル)トランスフェラーゼの触媒ドメインと相同性のある触媒ドメインを有していますが、ポリ(ADP-リボシル)トランスフェラーゼのC末端触媒ドメインを活性化するN末端DNA結合ドメインを欠いています。このタンパク質のN末端領域内の塩基性残基は、潜在的なDNA結合特性を有し、タンパク質の核および/または核小体への標的化に関与している可能性があります。異なるアイソフォームをコードする2つの選択的スプライシング転写バリエーションが見出されています。[RefSeq提供、2008年7月]、触媒活性: NAD (+) + (ADP-D-リボシル) (n) -アクセプター=ニコチンアミド+ (ADP-D-リボシル) (n+1) -アクセプター、機能: クロマチン構造とDNA代謝に関与する限られた数のアクセプタータンパク質のポリ(ADP-リボシル)化を触媒することにより、塩基除去修復(BER)経路に関与する。この修飾はDNA損傷後に起こり、DNA鎖切断の修復につながる検出/シグナル伝達経路における必須ステップとして機能します。、PTM: PARP1によってポリADPリボシル化されたタンパク質。、類似性: PARPαヘリックスドメインを1つ含む。、類似性: PARP触媒ドメインを1つ含む。、サブユニット: 少なくともXRCC1、PARP1、POLB、LIG3を含む塩基除去修復(BER)複合体の構成要素。PARP1とホモダイマーおよびヘテロダイマーを形成する。、組織特異性: 主に活発に分裂する組織で広く発現しています。脳、心臓、膵臓、骨格筋、精巣で最も多く発現します。また、腎臓、肝臓、肺、胎盤、卵巣、脾臓でも検出されます。白血球、結腸、小腸、前立腺、胸腺では低いレベルです。、

## 研究分野

塩基除去修復;

## 画像データ



PARP-2 ポリクローナル抗体を使用した K562 細胞のウェスタン ブロット分析。